

会議の概要

令和3年度 第4回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和3年9月3日（金）16:25～17:55

場 所：大玉中学校 体育館

（進行：大玉中教頭 早川 貢）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 館下 愛理）

皆さん、こんにちは。本日は蒸し暑い中お疲れ様です。それでは、令和3年度大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校学校運営協議会、第4回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を行います。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

○ 皆さん、こんにちは。今回は大玉中学校に特化してのCS委員会です。大玉中学校の先生方には、オープンスクールでの授業公開等でお疲れのところ、代表の先生方にご参加いただきありがとうございます。

先ほどのオープンスクールで感じたことを2点お話しさせていただきます。それがこの後の協議につながると思います。

○ 県北教育事務所の先生方に授業を見ていただいた。授業の前に安田校長先生から学校経営の概要説明があった。大玉中学校で力を入れていることの説明があり、それがこれからの協議につながっていくのだが、その中で、大玉中学校で言えばキーワードは“大玉プライド”であるが、それを“大玉ブランド”にしていきたいという話をされた。そういうことも念頭に置いて話し合いを進めていただきたい。

○ 最後には指導のまとめがあった。主任指導主事から、「よい授業をするための三角すい」についての話があった。よい授業をするためには、3つのゾーンがあり、そのベースとなるのが「生徒との信頼関係（生徒指導）」であるということである。大玉中学校の昇降口を見る機会があったが、その素晴らしさに驚いた。以前から言われていることだが、学校の日頃の生徒指導の実態を端的に表すのが昇降口の靴箱の様子であること、生徒指導がしっかりしていることを表している。

○ CS委員の皆さんには、短い時間ではあるが、大玉中学校がブランド化できるようにいろいろ提言やご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （おおたま学園CS委員会会長 伊藤和弥）

皆さん、改めましてこんにちは。本日は午後から長時間にわたって、オープンスクール、分科会、そしてこのCS委員会にご参加いただきありがとうございます。

私は道徳科の授業を参観させていただいた。子どもたちがとても元気で自由に発言し、伸び伸びと学んでいる姿を見て、先生方と子どもたちが本当に信頼し合って活動していることを実感した。指導

助言でも、このように先生方と子どもたちが信頼し合って、授業をしている様子というのはなかなか見られないのではないかと褒めの言葉をいただいた。これも、長年CSに携わってきて、子どもたちがこんなふうに成長してきたのかなと改めて感激している。

さて、今日は、限られた時間ではありますが、私たち大人も活発に意見を出し合って、よりよい意見として提言できるようにご協力をお願いしたいと思います。本日もよろしくお願いします。

4 大玉中学校出席者自己紹介

本日参加した大玉中の教職員が自己紹介を行う。

5 協議

(1) 令和3年度の学校運営について

(大玉中学校長 安田 浩明)

それでは学校運営の概要を説明させていただきます。

まず、この写真だが、校舎の上にちょうど虹が写っている。私は虹が大好きで、小さい頃「あの虹はどうなっているんだろう」と思い、どこまでも追いかけて行って力尽きたことがあった。見上げるととてもきれいだと感じる。7つの色のように、先生方もそれぞれのカラー、持ち味を生かして子どもたちから見上げられる（憧れられる）ような存在となって、調和のとれた組織でありたいといつも思っている。



① 教育目標について

先ほど教育長さんからもお話があったが、今年は「大玉プライド」を学校運営のキーワードにしている。本校の教育目標は、「意欲をもって学ぶ生徒」「認め合い高め合う生徒」「自ら心身を鍛える生徒」である。そして、学校経営の基本姿勢と目指す学校像を、「将来に夢を抱き、実現に向けてひたむきに努力する生徒」の育成を目指して次のような学校づくりを目指している。

- 生徒も教師も誇りをもてる学校 — 互いに認め合うことができる学校づくり
- 保護者や地域から応援され、共に歩む学校 — 地域に貢献する学校づくり
- 学び続ける教師がいる学校 — 指導力のある教師が揃う学校づくり

② 今年度の重点事項

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る。

【知育】

- お互いに授業を見合う機会を年間計画に位置付けている。授業研究会を計画して、全員が授業研究を行い、そこでKJ法による授業の振り返りをしてスキルアップに努めている。

イ 地域や社会と接点を持ちつつ、多様な人々との心の交流を通して豊かな人間性や社会性を育む。

【徳育】

- SDGsと関連を図りながら、豊かな体験・交流活動を推進していく。例えば、生徒会活

動の活性化を図って、“虹の架け橋”という活動で「大玉村に住む一人暮らしの高齢者に暑中見舞いのはがきを出そう」というテーマのもと取り組んだ。

- 村民に呼びかけをして、道端に落ちているゴミを拾ったりもした。また、募金活動を村内の3箇所で行った。多くの方々にご協力をいただいた。各学年の先生方も創意工夫をしながら生徒会活動や総合的な学習の充実に努めている。日頃からの絶大なるご支援、ご協力をいただいている地域に対して、学校として何か貢献できないかという視点で様々な取り組みをしているところである。
- 先日、今年度の全国学力・学習状況調査の結果が出た。学力的には国語も数学も全国標準、県標準を上回っていた。また、たくさんの質問項目がある中で、「総合的な学習の時間では自分の課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」について、全国・県平均を大幅に上回っていた。つまり、子どもたちが総合的な学習に一生懸命、自主的に取り組んでいるという自覚があるということの裏付けである。

ウ 様々な体験活動を通して、心身の健康増進と防災・安全教育の充実を図る。【体育】

- 昨年度の体力テストによると、体力的にはやや劣っている。特に全身持久力が低いという結果だった。簡単に言うと走り込みが足りないということである。今年度は、実態に基づく体力づくりメニューを作り、体育の授業や部活動等において全校を挙げて取り組んでいる。



- 「子どもたちに広がるSNSの世界」ということで調査を行ったところ、次のような結果になった。
 - ・ 使用時間…だいたい1日に2時間くらいネットに接続していると答えた生徒が多い。かなり使っている現状である。
 - ・ 「家族でルールを決めているか」の問い…「はい」と回答した生徒の数は多いのだが、「いいえ」の回答者の合計が全校で102名もいた。248名中102名であるので、かなりの割合で家庭でルールを決めていないということである。この辺りに問題があるのかなと思う。
- 心身の健康保持増進については、「メディアコントロール」や「望ましい生活習慣の確立」が大切である。さらに、今年度も引き続き新型コロナウイルス対策もしっかりしていかなければならないと考えている。そんな中意図的な体験と交流を実施した事例をあげる。
 - ・ 新入生と保護者に対して情報モラル教室を開いて、家庭のルールの大切さを学んでもらった。→ 家庭のルールを決めて欲しいというねらい
 - ・ 3年生に対して薬物乱用防止教室を開いた。茨木ダルク代表の岩井氏を講師に招いて、生の声を聴き子どもたちはかなり驚いていた。生徒が「薬物は全体に使ってはいけない」と心から感じた機会になった。また、一緒に参加いただいた保護者の方々からも「わが子にそんなことをさせたくないと思った」という感想が数多く寄せられた。

③ 地域と歩む学校を実現するために

積極的な情報発信が必要ではないかと思う。地域の方々に、学校のこと、子どものことを知っていただくことで地域と共に歩みきっかけづくりをしていきたい。

→ 直売所、J A、郵便局等に学校便りを掲示していただいている。また、地域清掃や募金活動を行ったのだが、その呼びかけを村の防災無線を使わせていただいていた。

④ 学び続ける教師がいる学校

- 福島県中学校教育研究会研究物審査会で2年連続で最優秀賞を受賞した。これは県で多数応募がある中、2校のみが選ばれる素晴らしい賞で、教職員のこれまでの研究の成果である。
- 外部講師を招いて服務倫理委員会を開いた。一般的に学校・教師の世界というのは狭いと言われるのだが、決してそうならないように企業等の外部講師をお招きしてご意見を伺った。
- 教師が学び続け、生徒が地域に貢献していくことによって、地域の皆さんに中学校のことをより知っていただくことにつながるのではないかと考える。(消防活動に貢献し消防署から表彰を受けたこと、お年寄り宛の葉書を書いてデイサービスに送ったこと等の実践等から)

生徒がいろんな方々から褒められたり、表彰されたりすることによって、教師の笑顔も増えている。

このような形で、生徒や教職員が大玉村に誇りを持ち、自分の学校にも「自負心」や「自尊心」を持てるよう、そして地域の方々にも思っただけのそんなプライドをつくっていききたい。そして、それがやがて“大玉ブランド”に成長し、大玉中が一流と呼ばれる学校になっていければいいと考えている。

今日は、その“大玉プライド”ということで話し合ってください。“大玉プライド”を育むためには、どのようなスキル・教育活動が必要なのかを考えご協議ください。一例はあげましたが、いろんなスキル・資質・能力があると思います。大玉村の子どもたちのためにということで何が必要かを各班で話し合っただけだと思います。以上長くなりましたが、私からの説明を終わります。

(2) グループ協議「『大玉プライド』を育むための資質・能力と教育活動について」

① グループ協議の進め方について

(大玉中教頭)

<議題について>

本日のグループ協議の議題は、「“大玉プライド”を育むための資質・能力と教育活動について」で、大玉中学校の子どもたちの豊かな成長とともに、“大玉プライド”を育むための資質・能力と教育活動についてである。大玉中学校の子どもたちの豊かな成長と“大玉プライド”を育むためにどのような資質・能力・スキルを高めればよいかを考え、学校と保護者や地域の皆さんのそれぞれの立場で“できること”“行いたいこと”“お願いしたいこと”等を出し合っただけきたい。要項10ページにスキルの例を挙げているがこれにこだわらなくても構わない。こんなスキルが必要ではないかということであげていただいてよい。なお、この議題を考えるに当たり、校長と教頭で話し合ったが、やはり地域の皆さんの考えをもっと生かしたいということでこの議題を設定している。

<協議の進め方>

ア 各自付箋に記入する。(5分)

イ KJ法でそれぞれの考えを共有し、同じ内容についてまとめる。(10分)

ウ 資質・能力、できること、行いたいこと、お願いしたいことについて協議する。(15分)
エ ウについて司会者が発表し、全体で共有する。(10分)

※ リーダーは大玉中の教職員が行う。発表はCS委員にお願いしたい。

② グループ協議

～ 略 ～

③ 隣接グループとの共有

～ 略 ～



④ 全体共有（代表のグループの発表） ～各班の代表者による発表～

(進行) 3つの班を指名するので、指名された班はマイクを使い全体に向かってお話しいただきたい。

3 班 (吉田CS副会長)

- 大きく分けて3つの意見が出た。
- 「子どもが主体となった発信力」

子どもたちが「やってみたい」「してみたい」ということを自分たちで計画したり、行動したり、発信したりと、主体的に実践する力が必要ではないか。そのためには、子どもたちが学校で取り組んでいることをもとに訴える機会を設定することや、大人が子どもを褒めたり認めたりする機会を増やすことが大切である。

- 「あいさつをする力」

大玉中学校の生徒は日頃からあいさつがよくできている印象だが、今後も継続してほしい。また、周り人と関わることでさらに思いやりの心も培ってほしい。

- 校外活動や交流活動等

- ・ コロナ禍で難しいことではあるが、部活動の練習試合や周りの地域との活動等を通して、さらに視野を広げて、うれしかったり、楽しかったり、時には悔しかったりする経験をしてほしい。

- ・ 子どもの学びを支える上でも家庭における健康管理等が大事である。



5 班 (後藤CS委員)

- 大きく分けて2つの意見がでた。
- 子どもたちの自己肯定感を高めることにつながる資質・能力→あいさつ、社交性、コミュニケーション能力、自分で積極的に体験すること

- ・ あいさつについて → 保護者目線では、今日の子どもたちのあいさつの様子は素晴らしいと感じたが、先生方としてはまだまだ不十分という印象のようだ。家庭や地域でもできるよう取り組んでいく必要がある。

- ・学校において認めあい、伸ばし合う生徒会活動等を積極的に行う。家庭においても子どもたちのよさや課題について話し合う機会を持つようにすればいいのではないかな。
- ・社交性について → コロナ禍であるので、外部との交流はなかなか難しいとは思いますが、できる範囲で学校で積極的に取り組んでいただきたい。家庭においては、ボランティア活動等に積極的に参加する機会を持つようにしたい。何事も自分でできる子になってもらいたいのので、(我慢して)見守ったり、できるだけ手を出さないようにしたりする。



○ 体力を身に付けること

先ほど校長先生から体力の低下のお話があった。部活動を頑張っているとは思いますが、通学の送迎が多い傾向にあり、体力の低下の一因にもなっているのではないかな。「暗くなってしまい心配」という保護者の気持ちは分かるが、月に何日か日にちを決めて、登下校の指導（自転車・徒歩による通学）を実施してみてもどうか。

6 班 （中小路CS委員）

- 私たちのグループでは4つの意見が出た。
- コミュニケーション能力

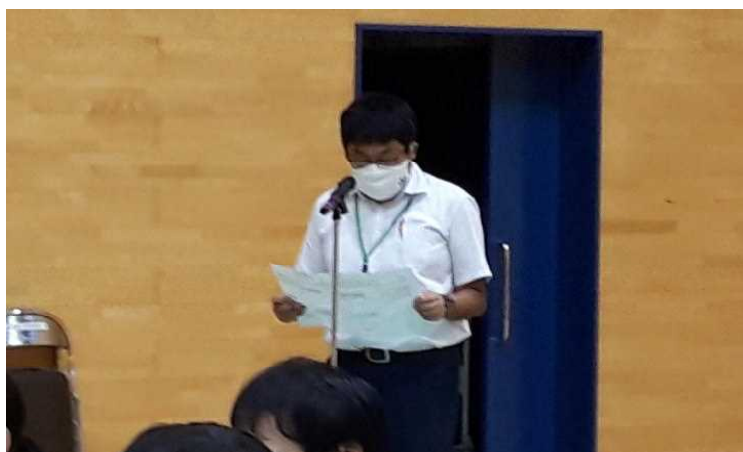
「日本一のあいさつをめざす」という目標を踏まえて、学校のあいさつ運動の充実を図るとともに、地域と連携をとりながら更なる充実を図っていく。

○ 協調性

仲間づくりが大切である。子どもたちは、大山小、玉井小から進学してくるのだが、異なる仲間意識を1つにまとめていくのが難しい。部活動については、スポ少でやってきた子と未経験の子についても違う意識があって難しい。

○ 郷土愛

郷土愛を育むために、地域と共に学ぶ総合的な学習の充実を図ったり、ゲストティーチャーに来ていただいて様々な部分での専門的な意見を聞いたり、経験したりできる場を設ける。



○ 愛校心

愛校心（＝この学び舎で過ごしてよかったという意識）をどうやって子どもたちに持たせられるか。→ 何年経ってもこの場所で一緒に学べてよかった」という学校の雰囲気や活動を実現したい。

(3) 講 評

(おおたま学園CS委員会会長)

- みなさんお疲れさまでした。楽しい時間はすぐに過ぎてしまいます。今日も充実した話し合いができたのではないかと思います。
- 私たちのグループでも話題になったのだが、大玉中学校の80%の生徒は、将来都会に行きたいという思いを持っているという話を聞いた。ただ、今まで通り大玉村のいい所をどんどん分かってもらえれば、将来的には必ず戻ってくると思う。(都会に出て確かにいい所もあり、そういう経験も必要なのだと思うが…。)
- コミュニケーション能力の向上を何とかお願いしたいという意見が私たちのグループでも出た。幼稚園から中学校まで全部同じクラスの子もいる。それ故、以心伝心でしゃべらなくとも考えていることが分かってしまうというようなことも起こりうる。様々な学習、交流活動、ICT教育等を推進することによって、コミュニケーション能力の向上を図れるのではないだろうか。
- 今後も、このようなコロナ禍の大変な中でもどういうふうに工夫したら進められるのか常に考え、協力していければいいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(4) 御礼のことば

(大玉中校長)

本日は、午後1時過ぎから授業参観、分科会、学校運営協議会と長時間に渡って参加され、学校の授業や様子等をご覧いただき、そして様々な提案をしていただき本当にありがとうございました。

「山椒は小粒でもぴりりと辛い」と言います。大玉中は規模は小さいけれども、小回りのきく利点を生かして、子どもたちの活動・交流・体験をたくさん行い、子どもたちの学びを育てていきたいと考えています。

地域の皆様の真心をいつも感じており、今日もそんな皆さんの気持ちを強く感じたところです。今後も教職員一同一丸となってがんばっていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(5) 事務局から

- ・ 本日のアンケートの記入・提出について

6 閉会のことば

(おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

皆さんお疲れ様でした。これをもちまして、令和3年度大玉村立大玉中学校学校運営協議会並びに第4回おおたま学園CS委員会を終わりたいと思います。外が薄暗くなっておりますので、気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

(指導主事 齋藤一範)

① 基本的な感染症対策について

項目（13）CS委員、関係団体、保護者ボランティアの方には、事前に「体調チェックと感染対策のお願い」を配付し、当日提出してもらうようにする。体調管理を徹底する。